

古川 知 明 (埋蔵文化財センター所長)  
 (株)パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ<sup>(1)</sup>

1 東薬寺史と出土地の概要

富山市牧野に所在する医王山東薬寺(人見照直住職)は、真言宗の古刹である(第1図)。本寺は、大宝元(701)年行基創建と伝承しており、「貞享二年寺社由緒書上」には、空栄が慶長元(1595)年開山したとある<sup>(2)</sup>。本尊の木造不動明王坐像(県指定)は、これまで平安時代末の作風を残した鎌倉初期の作とされてきたが<sup>(3)</sup>、放射性炭素年代測定の結果、11世紀前半にさかのぼることが明らかになった<sup>(4)</sup>。

東薬寺の前身は、桃井播磨守の菩提寺「牧野寺」と伝えられ、能登の斯波義将が津毛城攻撃の際この寺を焼討したという。廃絶した牧野寺所有品のすべてを東薬寺に譲ったものと推定されている<sup>(5)</sup>。

東薬寺薬師堂は、山腹の現本堂の北側に残る旧本堂前にあり、旧参道を登りきったところに位置する。この薬師堂の中に、乾燥した柱材3点、中世一石五輪塔1基が収められていた。柱材は、昭和47年春の圃場整備工事の際出土したもので、通称カネツキダ周辺から発見されたものを、牧野集落住民が薬師堂に納めたものという。柱材は数多く出土したが、この3本のみ現存する。堂内には、同時に出土したとされる角閃石安山岩製一石五輪塔(長さ27.6cm)1基が入っていた。また、山麓の旧参道に面する寺口氏宅には、室町時代(1380—1440年頃)の珠洲大甕<sup>(6)</sup>が遺存しており(第2図)、これらも柱材と一緒に出土したものと伝える。

カネツキダの範囲は、山麓の参道入口付近から東に広がる水田付近と推定され、明治以前の東薬寺本堂は、この南側に存在したと伝える(第3図)。

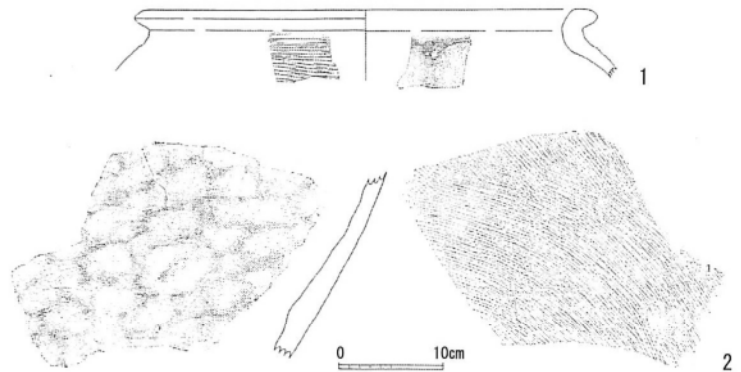
カネツキダを含む埋蔵文化財包蔵地「牧野遺跡」からは、富山市教育委員会埋蔵文化財センターが行った分布調査により、平安時代から近世にわたる陶磁器類が表面採集されている<sup>(6)</sup>。

2 柱材の概要(第4・5図)

断面が八角形状の柱材が3本ある。いずれも柱底が存在しており、柱底から20~40cmまでは良好に遺存する。それより上部は腐食してい



第1図 東薬寺の位置と柱材出土推定地(○印)



第2図 伝カネツキダ出土珠洲



第3図 カネツキダと周辺の地割(明治時代)

る。この柱材は、四角柱の隅角を 45 度方向に削った切面が行われた、いわゆる大面取柱である。いずれも辺材で心去材である。材質はスギまたはヒノキ材とみられる。以下その概要を記す。

**柱材(1)** 現存長 55.8cm、柱幅 21.1cm×19.8cm の柱材である(写真 4)。遺存状況から復元すると、柱幅は 7 寸(21.2cm)×6.5 寸(19.7cm)となる。7 寸幅面は、面内 4 寸を残し見付 1.5 寸を削落とし面取りする。6.5 寸面は、面内 3 寸(10cm)を残し見付 1.75 寸を削落とし面取りする。面幅は前者 2.1 寸、後者は 2.5 寸である。

各面内および面取部分は、手斧等で粗く仕上げられている。うち 1 面は柱底から 1~3 寸の範囲に楕円形のハツリ面があり、刃先の欠損痕跡が各面にすべて見えている(写真 6)。

柱底面は、側面側から削って平坦に整形している(写真 5)。

柱底部から上 4cm のところに、全面にわたり紐状の圧痕が巡る。圧痕の断面は半円形で、幅は約 2mm である。2~3 本が平行して巡っており、その幅は 6mm 程度である(写真 8)。この圧痕がいつの段階に、どういう理由で付いたかは不明である。

**柱材(2)** 現存長 52cm、幅 20.8cm×20.0cm の柱材である(写真 9)。遺存状況から復元すると、柱幅は 7 寸×7 寸となり、柱材(1)より柱幅が広い。面内は 10.6~14.4cm で、面幅は 3~4.8cm である。

各面内および面取部分は、柱底方向に手斧等で仕上げられている。柱材(1)より丁寧な整形である。柱面内に食い込んだ加工刃先跡からみて、幅約 4cm の刃先の水平なノミ状工具と、幅約 9.6cm の刃先の水平な鉞状工具が復元される(写真 11)。

底面はほぼ平らであるが、柱主軸に対して垂直ではなく、やや斜めに整形されており、底面を水平に据えると、柱は斜めに立つことにある(写真 10)。

**柱材(3)** 現存長 35.8cm、幅 14.7cm×13.5cm で、3 本中最も小形の柱である(写真 12)。遺存状況から復元すれば、幅は 5 寸(15.2cm)×5 寸となる。面内 3 寸を残し見付 1 寸を削落とし面取りするもの 1 面と、面内 2.5 寸を残し見付 1.25 寸を面取りするもの 3 面がある。面幅は、前者が 1.4 寸、後者は 1.8 寸である。各面内および面取部分は、手斧等で粗く仕上げられている。底面は側面側から削って平坦に整形している(写真 13)。

これらの柱は、7 寸角と 5 寸角との 2 種の大面取柱に分けられ、前者が主柱クラス、後者が脇柱クラスの規格とみられる。柱基部の良好な遺存状況等から判断すると、これらの柱は柱穴に埋めた掘立柱ではなく、礎石に乗せた柱とみられる。(古川)

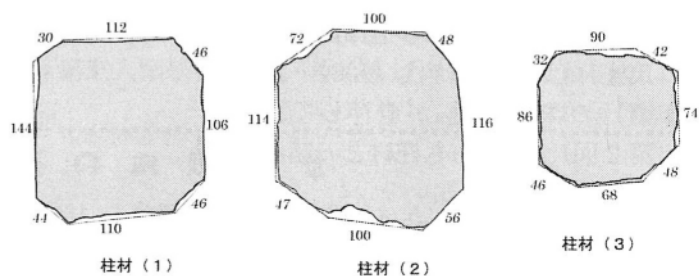
### 3 放射性炭素年代測定結果

牧野遺跡出土と推定される古建築材について、加速器質量分析法(AMS 法)による放射性炭素年代測定を行った。

#### (1) 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 1 表のとおりである。

牧野遺跡出土の断面八角形柱は、柱材の型式から古代末から中世前期とされる古建築材である。木材の樹種はス



第 4 図 柱断面形・規格(数字はmm)

第 1 表 柱材属性表

区分	面内(mm)					面幅(mm)					面内平均 : 面幅平均
	1	2	3	4	平均	1	2	3	4	平均	
柱材(1)	110	112	144	106	118	48	30	44	46	42	2.8 : 1
柱材(2)	100	100	116	114	108	48	56	72	62	59.5	1.8 : 1
柱材(3)	68	86	90	74	79.5	46	48	42	32	42	1.9 : 1

第2表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-12846	試料No. : 2 採取地 : 推定牧野遺跡 種類 : 断面八角形柱 木取 : 芯去材	試料の種類 : 生材(スギ/ヒノキ) 試料の性状 : 心材 状態 : dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N) サルフィックス

ギあるいはヒノキとされ、心材が用いられている。木取は芯去材である。

試料は調製後、加速器質量分析計(株)パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH) で測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

## (2) 測定結果

第2表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代、 $^{14}\text{C}$  年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal4.0 (較正曲線データ : INTCAL04) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、第3表中に下線で示した。

第3表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				$1\sigma$ 暦年代範囲	$2\sigma$ 暦年代範囲
PLD-12846 試料No. : 2	-24.54 $\pm$ 0.12	1105 $\pm$ 22	1105 $\pm$ 20	898AD (28.3%) 922AD <u>943AD (39.9%) 977AD</u>	<u>891AD (95.4%) 988AD</u>

## (3) 小結

牧野遺跡出土の断面八角形柱 (PLD-12846)  $2\sigma$  暦年代範囲は、891-988calAD (95.4%) で、9世紀末～10世紀後半にあたる。断面八角形柱も心材が用いられており、古木効果の影響を考える必要がある。従って、断面八角形柱の木材が伐採されたのは9世紀末以降と言える。(株)パレオ・ラボ

## 4 考察

カネツキダ周辺の牧野遺跡から出土した角柱は、9世紀末以降に伐採された木材による建物柱材であることが判明した。正八角断面ではなく、大面取を行う角柱として認識される。

まず大面取の角柱の性格を検討する。このような大面取柱についての概要は、青木義脩氏により、次のように概括されている<sup>6)</sup>。大面取柱は、平安時代後期に始まり、この時期が最も顕著である。寺社建築では円柱が主流で、角柱は裳階・庇・向拝等に用いられ、格が低い。大面取柱は桃山期まで存在し、その時期には柱幅と面幅の比は 10 : 1 程度になる、といった特徴である。このような建物には、寺社・官衙施設などが想定されている。

本例においては、柱幅と面幅の比は平均値で 1.8～2.8 であり、これは面取部分が大きいことを示し、桃山期以前の古相と考えることができる。

頭書で紹介した、東薬寺の前身とみられる牧野寺の伝承は、桃井直常との関連で語られており、14世紀後半代との親縁性が高い。共伴した可能性の高い遺物は、先に紹介した一石五輪塔・珠洲陶

であり、およそ 15 世紀第 2 四半世紀以降における密教系宗教遺構の存在と、墓地あるいは集落の形成を示唆する。

牧野遺跡の内容はこれらより古く、9 世紀以降継続して人々の生活の痕跡があったことを示している。

以上の結果を総合的に評価すると、この大面取角柱の年代は、<sup>14</sup>C 年代及び大面取角柱出現年代からみて、平安後期 11 世紀頃を上限とする年代を考えることができよう。この年代は、先に述べた本尊不動明王坐像の年代（11 世紀前半）と符号する。石原与作氏は、この不動明王坐像は牧野寺の所蔵品であったと推定しており<sup>6)</sup>、牧野寺の用材としてこの大面取角柱が使用された可能性が浮上する。したがって、この大面取角柱が出土した位置に牧野寺が存在した可能性がある。しかしながら、この木柱が出土した当時のことを知る方々は既に他界されており、その正確な位置は不明となってしまった。

ただし、出土した生活遺物からみると、15 世紀頃の室町後期が主体である。これは伝承の桃井直常の年代ともずれていることになる。このような相違は、今後の発掘調査等の成果によって再度解明を試みなければならない。ここでは、平安後期牧野寺の建築材の可能性を提示しておきたい。

## 5 おわりに

本稿の作成にあたり、木柱の図化は小林高太氏の協力を得た。また、東薬寺ご住職、寺口重彦氏、松浦正昭氏（富山大学）の各位には多大なご協力を得た。記してお礼申し上げる。 （古川）

## 注

- (1) 伊藤茂・丹生越子・尾寄大真・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎
- (2) 古川知明・伊集守道 2008 「医王山東薬寺の文化四年銘宝篋印塔下の埋納礫石経の調査」『富山市考古資料館紀要』第 28 号 富山市考古資料館
- (3) 松浦正昭・古川知明・(株)吉田生物研究所・(株)パレオ・ラボ 2010 「医王山東薬寺蔵木造不動明王坐像の年代測定分析について」『富山市考古資料館報』No.47 富山市考古資料館
- (4) 石原与作 1963 『大山史話』 大山町
- (5) 吉岡康暢氏による珠洲陶編年の第 V 期（西暦 1380 年から 1440 年代）に比定される。  
吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- (6) 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2008 「6 遺跡地図管理」『富山市の遺跡物語』第 9 号
- (7) 青木義脩 2000 『文化財探訪クラブ③ 寺社建築』 山川出版社



写真 1 東薬寺と柱材出土地付近（東から）



写真 2 柱材が保管されていた東薬寺薬師堂



写真3 米軍撮影空中写真 (1947年)



写真4 柱材1



写真6 柱材1のハツリ



写真5 柱材1底面



写真7 柱材1加工



写真11 柱材2加工



写真9 柱材2



写真12 柱材1底面



写真8 柱材1の圧痕

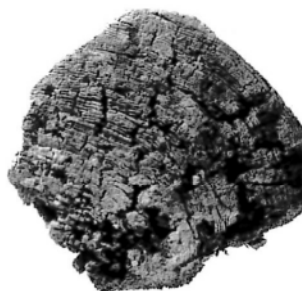


写真10 柱材2底面

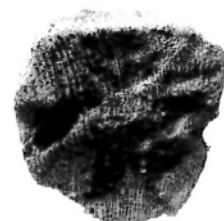
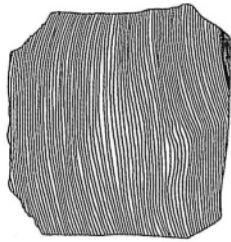
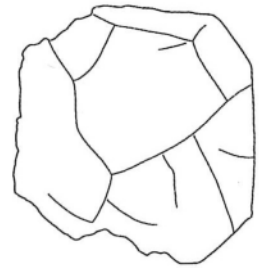
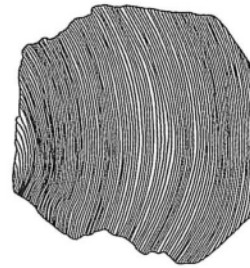


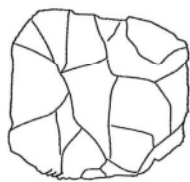
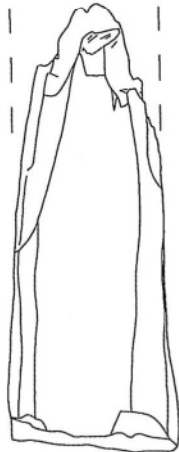
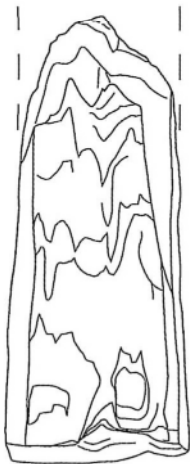
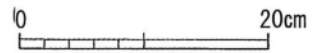
写真13 柱材1底面



1



2



3

第5図 木柱実測図

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第12号

平成23(2011)年3月30日

編集・発行

富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1-2-24

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

URL: <http://homepage2nifty.com/kitadai/>

(北代縄文広場と兼用)

E-mail: [maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp](mailto:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp)

印刷 株式会社スカラファクトリー